

平成27年度 みやざき地域志向教育研究経費 概要

所属部局等	代表者
農学部	本勝 千歳
対象となる領域	地域志向教育研究経費区分
地域志向研究領域	地域課題解決型
プロジェクト名又は研究名	
西都市における新規熱帯果樹栽培導入に向けた調査研究	

概要説明

<プロジェクト又は研究の必要性及び目的>

西都市は、宮崎県内で最も早く昭和61年頃からマンゴー栽培の産地化に取り組み、現在の完熟マンゴーの生産方法を確立してきた。しかしながら、現在では冬季加温のための重油価格の高騰や、他産地でのマンゴー生産の増加により、マンゴーの収益性が低下している。このような状況において、マンゴーに変わる新しい熱帯果樹生産のニーズが高まっている。

新規熱帯果樹としてアボカドとパッションフルーツが有望であると考えられる。アボカドのおいしさは国内で認知されつつあり、現在は年間を通じて輸入(主にメキシコ産)のアボカドが販売され、大きな市場がある。しかしメキシコ産のアボカドは未熟状態で若採りされており果実品質は低い。したがって樹上完熟した高品質なアボカドを宮崎県で生産することができれば、一大産業になる可能性がある。またパッションフルーツは、国内で生食用を中心に生産量が急増しており、新規導入果樹として有望である。つる性で成長が速いので、冬季に大苗を育苗し5月に露地に定植すれば、その年の8-9月に収穫することができ、低コストで栽培できる点も魅力である。

これらの果樹は、これまでに宮崎県ではほとんど栽培されていない。さらに、樹上完熟したアボカドやパッションフルーツを食べた経験を持つ人も少ない。本プロジェクトでは、食味評価試験などを通じて地域の方と一緒に、これら果樹の産業としての可能性や、地域に適した品種を検討する。栽培方法についての知見もほとんどないことから、西都市の農家圃場や大学内での試験圃場で栽培試験を行い、西都市ならびに本県に適した栽培技術管理体系の確立を目指す。本研究は、西都市から提出された地域ワーキンググループ設置自治体地域課題「西都市産農産物の生産及び加工推進に関する研究」に資するものである。